

第77期 中間報告書

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

香薫[®]

こうくん

味わい豊かな内なる香り【挽きたてスパイス】
食欲をそそる外からの薫り【桜スモーク】



株主優待制度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、多くの方々へ長期的に当社株式を保有していただき、当社事業に対するご理解をより深めていただくことを目的に、株主優待制度を導入しております。

●対象となる株主様

毎年9月30日現在の株主名簿に記載された、
200株以上保有の方



イメージ

おいしさ、ふれあい。
123.リマハム

証券コード：2281



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、2023年4月1日から2023年9月30日までの
当社グループの経営成績につきましてご報告申し上げます。
今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう
宜しくお願い申し上げます。

2023年12月

代表取締役社長 社長執行役員

千葉 尚登

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類変更や行動制限の撤廃に伴い、国内消費者の行動心理が活性化し、外食需要やインバウンドを含めた観光需要等が大幅に回復、百貨店やコンビニエンスストア等の流通業も堅調に売上を伸ばしており、経済活動は平常化に戻りつつあります。

一方、原材料価格や、エネルギーコストは高値が継続、円安の再度の進行、労働コストも高まる等、製造コストの上昇が続いております。このため前期に引き続き当期も様々な業種において値上げが複数回実施されており、食品全体の値上げ品目数は前期を上回る見通しです。このような状況を受け、ベースアップ等で賃金水準は上昇に向かっているものの、物価上昇率に比べれば十分とは言えず、生活防衛意識の高まりから消費拡大に直結するとは言い難い市場環境となっています。

当業界におきましても、上記の製造コストの上昇に加え

て、現地相場高、円安水準の継続、疾病問題等の畜肉市場が大きく変動する要因が多く、厳しい事業環境が継続しております。

このような状況の中、当社グループは「目指す姿」である「おいしさと感動で、食文化と社会に貢献」という基本的な考えのもと、中期経営計画目標の達成に向けて、「ESGへの取り組みと持続可能な経営基盤の強化」と「外部環境の変化に対応した収益基盤の構築」及び「成長投資とグローバル展開」を基本方針と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高2,227億35百万円（前年同期比5.2%増）となりました。また、利益面におきましては、営業利益68億29百万円（前年同期比24.8%増）、経常利益74億27百万円（前年同期比27.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益38億61百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

加工食品事業部門

売上構成比
70.5%

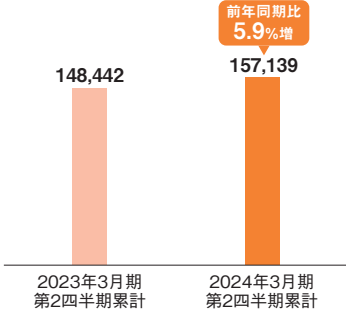
〈ハム・ソーセージ部門〉

主力ブランドの「香薫® あらびきポークウインナー」は、定番の2個束商品に加え、大袋ジッパー付き商品の販売も引き続き好調に推移しました。販売促進政策では、東京ディズニーリゾート® ご招待キャンペーンやSNSを活用したキャンペーン等を継続的に実施し、今期も販売シェア拡大を継続することができました。新たに建て替えた鹿児島工場が、今春より本格的に稼働を開始し、安定した商品の提供に寄与しております。結果、市販用商品、業務用商品とも売上高及び販売数量は前年を上回り、順調に推移いたしました。損益面では値上げの浸透以上に原材料のコストが上昇し、前年を下回る結果となりました。

〈加工食品部門〉

加工食品部門では、常温商品の「ストックディッシュ」、手軽に食べられる「サラダチキンバー」等の市販用商品が消費者から評価を得ており、順調に拡販を進めることができました。また業務用商品においては、市場の回復や価格改定の効果により売上高を拡大できましたが、原材料等の仕入れコストの大幅な上昇を補いきれず、利益面では前年同期を下回る結果となりました。コンビニエンスストア向けのベンダー事業については、原材料高騰や、燃料高、人件費アップなど製造コストが上昇したものの、お客様の要望に応えた新商品を開発、発売を継続的に行ったことにより、売上高、利益面とも前期を上回ることができました。

加工食品事業部門(売上高)(単位:百万円)



これらの結果、加工食品事業部門は、売上高1,571億39百万円（前年同期比5.9%増）となり、セグメント利益63億1百万円（前年同期比7.2%増）となりました。



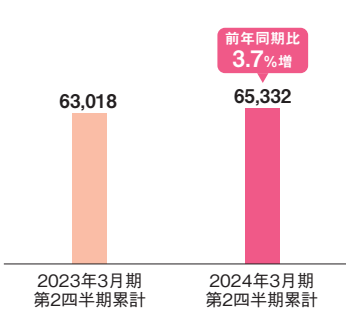
食肉事業部門

売上構成比
29.3%

海外の畜肉相場高に加え、円安による輸入仕入れコストの上昇等、食肉事業の仕入環境は厳しい状況が続いています。販売先の店頭価格は、食肉の相場上昇を補うまでの十分な価格上昇には至らないものの、段階的に販売先への価格転嫁を進めるとともに、相場と連動した取引への変更も徐々に浸透し、昨年を上回る売上高、利益を確保できました。国産の豚肉相場は高水準で推移しているものの、飼料価格も依然として高い水準の為、養豚事業は収益的には厳

しい環境ですが、宮城新農場の肥育は順調に進み、夏場以降予定通り出荷を開始しており、良質な豚肉を適正な価格で販売拡大できるよう、様々な取り組みを進めていく所存です。これらの結果、食肉事業部門は、売上高653億32百万円（前年同期比3.7%増）となり、セグメント利益6億26百万円（前年同期はセグメント損失1億95百万円）となりました。

食肉事業部門(売上高)(単位:百万円)



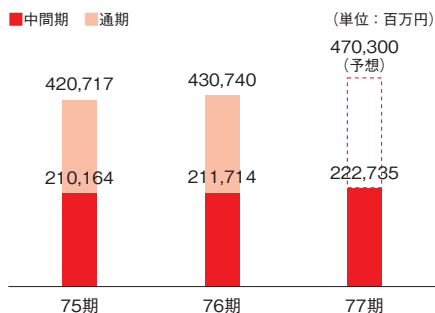
財務ハイライト

財務情報の詳細は、当社IRページをご覧ください。→



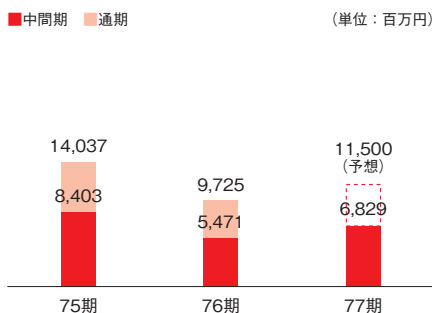
売上高

2,227億円
(前年同期比5.2%増)



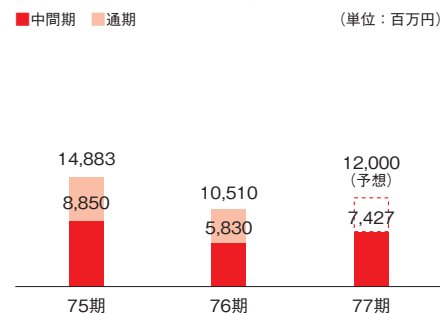
営業利益

68億円
(前年同期比24.8%増)



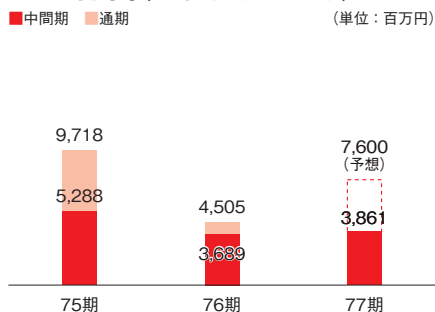
経常利益

74億円
(前年同期比27.4%増)



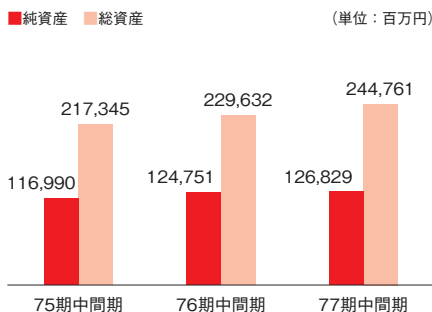
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

38億円 (前年同期比4.7%増)



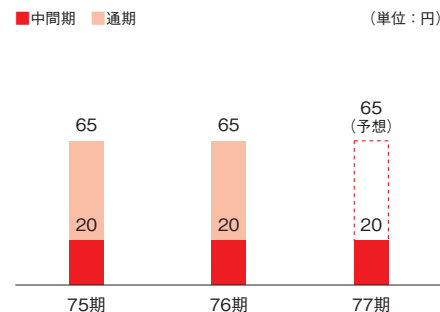
純資産／総資産

1,268億円 / 2,447億円
(前年同期比1.7%増) (前年同期比6.6%増)



1株あたり配当金

20.00円

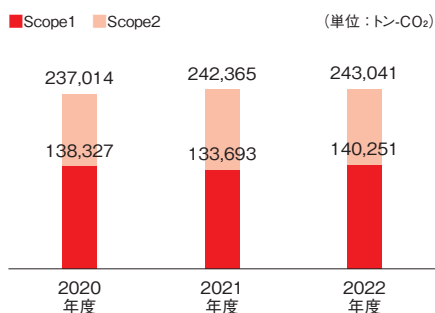


非財務ハイライト

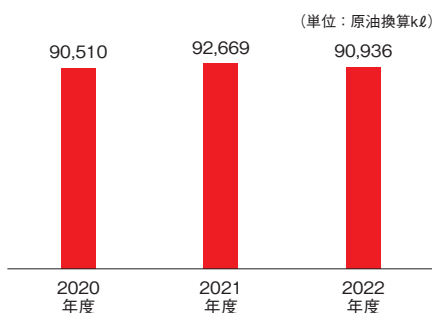
非財務情報の詳細は、当社サステナビリティページをご覧ください。→



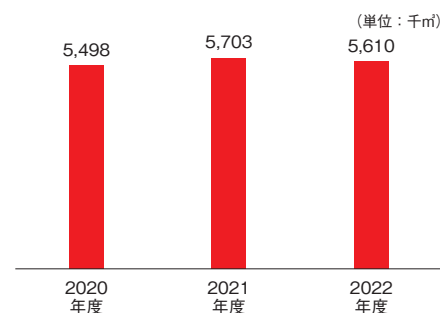
温室効果ガス排出量



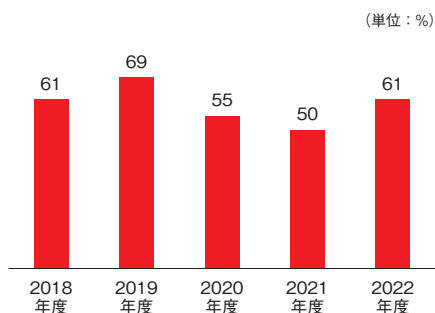
エネルギー消費量



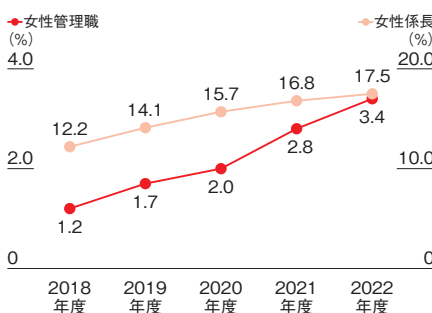
水使用量



有給休暇取得率(単体)

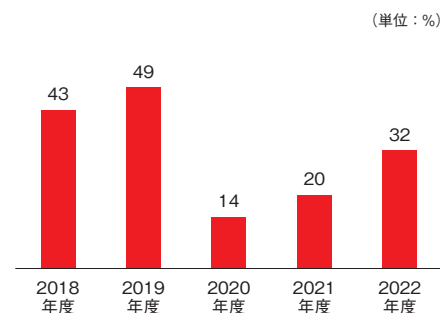


女性管理職・係長比率(単体)*



* 出向を含む

女性採用比率(単体)



持続的な成長に向けて

月間生産能力は従来の約1.3倍 鹿児島新工場が本格稼働

鹿児島
鹿児島新工場

2023年4月、鹿児島県に立ち上げた新工場が本格稼働しました。これによって工場での月間生産能力を引き上げるとともに、“鹿児島県ならではの”高付加価値な商品の供給体制を整えています。



香薫
あらびきポーク

鹿児島新工場産の商品



サラダチキンバー
プレーン



つまみ鶏
九州産
旨辛とり皮

ラインの柔軟さを活かし、 他工場ではつくりえない商品を生産

鹿児島工場は、開設から60年余りが経っていたため老朽化が課題となっていました。そこで、約130億円を投じ、最新設備を採り入れた新工場を建設しました。香薫あらびきポークなどの全国商品の生産能力が大幅に向上するほか、今後は鹿児島新工場から中国・四国の一部地域への出荷が可能となり従来よりも輸送費用や運搬負荷の軽減が見込めます。また、商品の特性にあわせてフレキシブルにラインを組むことが可能なため、他工場ではつくりえない手の込んだ商品、地域性がある商品の割合を増やし、新工場の強みを最大化していきます。



鹿児島新工場のおもな特徴

- | | |
|---------|--|
| 効率化・省人化 | ● 製造ラインの柔軟性
● AI検査装置の導入による生産の合理化 |
| 環境配慮 | ● 太陽光発電設備の設置（PPAモデル）
● LNG（液化天然ガス）への燃料転換
● 自然冷媒を使用した冷凍機の採用
● オンサイトコージェネレーションシステムの採用 |
| その他 | ● 補給エリアの拡大
● 地元原材料を使用した商品づくり |

【環境に配慮した設備】



ボイラー設備の燃料を
CO₂排出量が少ないLNG
（液化天然ガス）に切り替え



太陽光発電設備によって年間5,000トン以上のCO₂を削減

前回中間報告書では、株主の皆様からたくさんのコメントをいただきました。その一部をご紹介します。

表紙のインパクト、かわいいキャラクターなど
面白味の充実した冊子に満足。

報告書が簡潔にまとめられていて
わかりやすかったです。



株主様とのよりよいコミュニケーションのために。
アンケートへのご協力をお願いいたします



<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2281

いいかぶ

検索



スマートフォンからもアクセスできます

右のQRコードをカメラで読み取れば、
スマートフォンからもアクセスできます。
※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

- アンケート実施期間は、本書がお手元
に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝（QUOカードPay500円）
を進呈させていただきます



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する
「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。https://www.link-cc.co.jp
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の
目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ MAIL: info@e-kabunushi.com
「e-株主リサーチ事務局」

1 「国産豚肉のインテグレーション強化に向けて」広大な繁殖・肥育農場を建設

プリマハムグループの食肉事業は、成長戦略として「国産豚肉の生産」を強化しており、宮城県の大田町の広大な土地を持つ「繁殖農場」と「肥育農場」を建設しました。最新鋭の設備を駆使し、科学的なデータに基づき高い生産性と収益性を追求していきます。



宮城農場 亘理



宮城農場 山元

2 「プリマハムグループ統合報告書2023」を当社ホームページに掲載!

ステークホルダーの皆様へ「当社グループへの理解を深めていただくこと」、「中長期の戦略と実現プロセスを理解していただくこと」を目的に作成しております。従来の構成に加えて「サステナビリティマネジメント」のセクションを設け、当社グループの重要課題（マテリアリティ）の解決に向けた目標・KPIを公表しております。

※昨年同様、環境負荷軽減の観点から冊子の発行を廃止し、Web版(PDF)のみの掲載としております。



今後の制作に向けて、ご意見・ご感想をお待ちしております。➡



3 「サステナビリティ」「人権方針」と「調達方針」の制定

当社は、2023年9月4日（月）に、サステナビリティ経営の推進を図るため「人権方針」と「調達方針」を制定しました。



詳細はプリマハムHPのサステナビリティページをご覧ください。

人権方針



調達方針



4 「スマイルUP!®シリーズ」の新発売

当社は「おいしい笑顔が、毎日のしあわせを連れてくる。」をテーマに、連パックブランド「家族でおいしくスマイルUP!®シリーズ」を本年9月1日より発売しております。

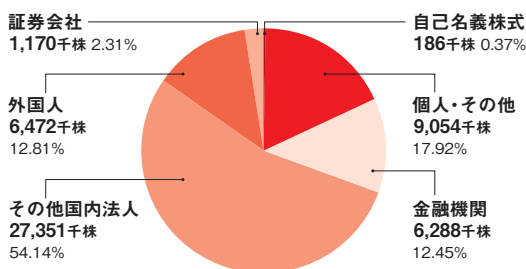
商品特徴は、4枚毎に真空包装し連に束ねた包装形態で、使いやすく保存にも便利な商品です。簡単に開封できるよう、つまみやすいあけ口を2箇所配置しています。包材は環境に配慮した水溶性インキ、ラベルは点字入りのユニバーサルデザインを使用しています。

株式情報（単体）

(2023年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 70,000,000株
- 発行済株式総数 50,524,399株
(自己株式186,975株)
- 株主数 29,459名

●所有者別株式分布状況



●大株主

大株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
伊藤忠商事株式会社	22,950	45.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,064	6.09
伊藤忠食品株式会社	2,262	4.50
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,155	2.30
学校法人竹岸学園	910	1.81
BBHFOR UMB BANK, NATIONAL ASSO—PEAR TREE POLARIS VAL SM CAP FD	889	1.77
農林中央金庫	713	1.42
株式会社サンショク	700	1.39
日本生命保険相互会社	446	0.89
JP MORGAN CHASE BANK 385781	427	0.85

(注)持株数は千株未満切り捨て、持株比率は小数点第3位以下四捨五入で表示しております。

会社概要

(2023年9月30日現在)

■役員

代表取締役社長	千葉 尚 登
社長執行役員	
取締役	中 島 聡
取締役(社外)	山 下 丈
取締役(社外)	井 出 雄 三
取締役(社外)	辻 田 淑 乃
常勤監査役	坂 井 尚 文
常勤監査役(社外)	下 澤 秀 樹
監査役	阿 部 邦 明
監査役(社外)	須 永 明 美

■会社概要

商 号	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers, Ltd.
本 社	〒140-8529 東京都品川区東品川4丁目12番2号 TEL:03-6386-1800
代 表 者	代表取締役社長 社長執行役員 千葉 尚登
事 業 内 容	ハム・ソーセージ、食肉及び加工食品の製造販売
創 業 日	昭和6(1931)年9月1日
設 立 日	昭和23(1948)年7月9日
資 本 金	79億8百万円
従 業 員 数	2,053名(単体)
支 店 等	東北支店(宮城)・関東支店(東京)・中部支店(愛知)・ 関西支店(大阪)・中四国支店(広島)・九州支店(福岡)
工 場	北海道工場・茨城工場・三重工場・鹿児島工場
物 流 セ ン タ ー	関東物流センター(茨城)・三重物流センター・福岡物流センター
研 究 機 関	基礎研究所(茨城)・生産技術開発部(茨城)
グ ル ー プ 会 社	33社

プリマハム株式会社

<https://www.primaham.co.jp/>